

動物とヒトのからだ（1）消化と吸収

□001	酸素と結びついて、体を動かすエネルギーや熱を作り出す、米や麦などの穀物や芋・豆類に多く含まれる栄養素は何か	☆☆☆☆☆	炭水化物
□002	炭水化物を多く含む食品の組み合わせとして正しいものを選び 【ア.肉・魚・卵 イ.米・魚・大豆 ウ.米・麦・いも エ.牛乳・卵・大豆】	☆☆☆	ウ.米・麦・いも
□003	筋肉や内臓などからだをつくる材料になる、肉や卵、大豆などに多く含まれる栄養素は何か	☆☆☆☆☆	タンパク質
□004	タンパク質を多く含む食品の組み合わせとして正しいものを選び 【ア.肉・魚・大豆 イ.米・魚・大豆 ウ.米・麦・いも エ.牛乳・いも・大豆】	☆☆☆	ア.肉・魚・大豆
□005	熱や力のもとになり、卵黄やバターなどに多く含まれる栄養素は何か	☆☆☆☆☆	脂肪
□006	脂肪を多く含む食品の組み合わせとして正しいものを選び 【ア.肉・魚・米 イ.米・魚・大豆 ウ.バター・卵黄・落花生 エ.牛乳・いも・大豆】	☆☆	ウ.バター・卵黄・落花生
□007	炭水化物は、主に体内でどのように使われる栄養素か	☆☆☆☆☆	.体を動かすエネルギー
□008	タンパク質は、主に体内でどのように使われる栄養素か	☆☆☆☆☆	からだをつくる材料
□009	脂肪は、主に体内でどのように使われる栄養素か	☆☆☆	熱や力のもとになる
□010	からだの調子を整えたり、成長を助けたりする栄養素は何か	☆☆☆	ビタミン
□011	歯や骨、血液などの成分になる栄養素は何か	☆☆☆	ミネラル
□012	三大栄養素は何か	☆☆☆☆☆	炭水化物、タンパク質、脂肪
□013	食物に含まれる栄養を体内に取り込みやすいものに変えるはたらきを何というか	☆☆☆☆☆	消化
□014	消化に関するはたらきをする体の組織をまとめて何というか	☆☆☆☆☆	消化器官
□015	肉食動物の消化管の長さとして適切なものを選び 【ア.体長とおなじくらい イ.体長の約2倍 ウ.体長の約10倍 エ.体長の約15倍】	☆☆	イ.体長の約2倍

□016	草食動物の消化管の長さとして適切なものを選び 【ア.体長とおなじくらい イ.体長の約2倍 ウ.体長の約10倍 エ.体長の約15倍】	☆☆☆	エ.体長の約15倍
□017	肉食動物の歯の特徴は何か	☆	肉を切り裂く門歯や、獲物を仕留める犬歯が発達している
□018	草食動物の歯の特徴は何か	☆	草をすりつぶすための臼歯が発達している
□019	ヒトの大人の歯の本数は何本か	☆☆	32本（親知らずが出ないと28本）
□020	体内の組織で、食物が通過する部分をまとめて何というか	☆☆☆☆	消化管
□021	ヒトの消化管のつながる順序に並べ替えよ 口→【ア.胃 イ.小腸 ウ.大腸 エ.食道】→肛門	☆☆☆☆	エ.食道→ア.胃→イ.小腸→ウ.大腸
□022	消化管には含まれないが、消化器官としてはたらきをもつ臓器をすべて選べ 【胃、肝臓、小腸、食道、すい臓、心臓、胆のう、大腸、腎臓、肺、脳、ぼうこう】	☆☆☆☆☆	肝臓、すい臓、胆のう
□023	消化管としての口のはたらきを説明した文の空欄に適語を入れよ 「口は食べ物を【A. 】、だ液とまぜて【B. 】を消化しながら【C. 】へ送る」	☆☆☆	A.歯で小さくくだき B.デンプン C.食道
□024	口の中で分泌される消化液は何か	☆☆☆☆☆	だ液
□025	だ液を作る器官の名前は何か	☆☆☆☆☆	だ液腺
□026	食道のはたらきを説明した次の文の空欄に適語を入れよ 「食道には食べ物を消化するはたらき【A. 】、口から【B. 】へ食べ物を送る」	☆☆☆	A.はなく B.胃
□027	胃のはたらきを説明した次の文の空欄に適語を入れよ 「胃は食べ物と胃液をまぜ、どろどろにとかしながら【A. 】を消化して【B. 】へ送る」	☆☆☆☆☆	A.タンパク質 B.小腸（十二指腸）
□028	塩酸が含まれ、食べ物の殺菌をするとともに、タンパク質の消化を助ける消化液は何か	☆☆☆☆☆	胃液
□029	食べ物をほぼ完全に消化するとともに、養分を吸収する消化器官は何か	☆☆☆☆☆	小腸
□030	食べ物と消化液をまぜ、どろどろにとかしながらタンパク質を消化する消化器官は何か	☆☆☆☆☆	胃
□031	栄養を吸収したあとの残りかすから水分を吸収する消化器官は何か	☆☆☆	大腸

- 032 脂肪を細かくすりつぶすためのたん液を作り、小腸で吸収した栄養をグリコーゲンとして貯蔵する消化器官は何か
☆☆☆☆ 肝臓
- 肝臓のはたらきとして正しいものを選び
□033 【ア.血液から不要物をこしとる イ.食べ物から栄養を吸収する ウ.たん液をたくわえる エ.体内で発生した有毒物質を分解する】
☆☆☆☆ エ.体内で発生した有毒物質を分解する
- 肝臓のはたらきとして正しいものを選び
□034 【ア.血液から不要物をこしとる イ.小腸で吸収した養分を貯蔵する ウ.たん液をたくわえる エ.酸素と二酸化炭素を交換する】
☆☆☆☆ イ.小腸で吸収した養分を貯蔵する
- 035 肝臓でつくられる消化液は何か
☆☆☆☆ たん液
- たんのうのはたらきとして正しいものを選び
□036 【ア.消化液のたん液を作る イ.消化液のたん液を貯蔵する ウ.胃から送られた食物を消化し、小腸へ送る エ.消化液のすい液を作る】
☆☆☆☆ イ.消化液のたん液を貯蔵する
- 037 たん液をたくわえる消化器官は何か
☆☆☆☆ たんのう
- すい臓のはたらきとして正しいものを選び
□038 【ア.消化液のたん液を作る イ.栄養をグリコーゲンとしてたくわえる ウ.胃から送られた食物を消化し、小腸へ送る エ.消化液のすい液を作る】
☆☆☆☆ エ.消化液のすい液を作る
- 039 すい液が食物にはたらき、消化を行う場所は何か
☆☆☆ 十二指腸
- 大腸のはたらきとして正しいものを選び
□040 【ア.消化液の腸液をつくり、食物を消化する イ.栄養素を吸収する ウ.吸収された養分を貯蔵する エ.消化後の残りかすから水分を吸収する】
☆☆☆ エ.消化後の残りかすから水分を吸収する
- 041 デンプンの消化にはたらく消化液を3つ答えよ
☆☆☆☆ だ液・すい液・腸液
- 042 タンパク質の消化にはたらく消化液を3つ答えよ
☆☆☆☆ 胃液・すい液・腸液
- 043 脂肪の消化にはたらく消化液を3つ答えよ
☆☆☆☆ たん液・すい液・腸液
- 044 ブドウ糖は何が消化されてできたものか
☆☆☆☆ 炭水化物(デンプン)
- 045 アミノ酸は何が消化されてできたものか
☆☆☆☆ タンパク質

□046	モノグリセリドは何か消化されてできたものか	☆☆☆☆	脂肪
□047	デンプンが体内で消化されたあと、吸収されるときは何という物質になるか	☆☆☆☆☆	ブドウ糖
□048	タンパク質が体内で消化されたあと、吸収されるときは何という物質になるか	☆☆☆☆☆	アミノ酸
□049	脂肪が体内で消化されたあと、吸収されるときは何という物質になるか	☆☆☆☆☆	脂肪酸とモノグリセリド
□050	デンプンが最初に消化され別のものになる消化器官は何か	☆☆☆☆☆	口
□051	タンパク質が最初に消化され別のものになる消化器官は何か	☆☆☆☆☆	胃
□052	脂肪が最初に消化され別のものになる消化器官は何か	☆☆☆	十二指腸 (小腸)
□053	体内で起こる消化などの反応を行う、タンパク質からなるものを何というか	☆☆☆	酵素
□054	消化をおこなう酵素は何からできているか	☆☆	タンパク質
□055	消化をおこなう酵素について説明した文の空欄に適語を入れよ 「消化酵素は【A. 】としてはたらき、酵素自身は【B. 】、栄養素の分解をすすめる」	☆☆☆☆	A.触媒 B.変化せず
□056	だ液に含まれる消化酵素が分解できる栄養素を答えよ	☆☆☆☆☆	デンプン (炭水化物)
□057	胃液に含まれる消化酵素が分解できる栄養素を答えよ	☆☆☆☆☆	タンパク質
□058	すい液に含まれる消化酵素が分解できる栄養素を答えよ	☆☆☆☆☆	デンプン・タンパク質・脂肪
□059	腸液に含まれる消化酵素が分解できる栄養素を答えよ	☆☆☆	デンプン・タンパク質・脂肪
□060	デンプンを分解し糖にする消化酵素は何か	☆☆☆	アミラーゼ (プチアリン、アミロプシン)
□061	アミラーゼが分解できる栄養素は何か	☆☆☆☆☆	デンプン

□062	だ液に含まれる消化酵素は何か。消化酵素を含まない場合は「ない」と答えよ	☆☆☆☆	だ液アミラーゼ (プチアリン)
□063	プチアリンが分解できる栄養素は何か	☆	デンプン
□064	タンパク質を分解し、ペプトン (ポリペプチド) にする消化酵素は何か	☆☆☆	ペプシン
□065	ペプシンが分解できる栄養素は何か	☆☆☆☆	タンパク質
□066	胃液に含まれる消化酵素は何か。消化酵素を含まない場合は「ない」と答えよ	☆☆☆☆	ペプシン
□067	プチアリンが含まれる消化液は何か	☆	だ液
□068	ペプシンが含まれる消化液は何か	☆☆☆	胃液
□069	たん液に含まれる消化酵素は何か。消化酵素を含まない場合は「ない」と答えよ	☆☆☆☆	ない
□070	たん液について説明した文の空欄に適語を入れよ 「たん液には消化酵素が【A. 】、十二指腸で【B. 】を細かくすりつぶす」	☆☆☆☆	A.含まれず、B.脂肪
□071	脂肪を分解し、脂肪酸とモノグリセリドにする消化酵素は何か	☆☆☆	リパーゼ
□072	リパーゼが分解できる栄養素は何か	☆☆☆	脂肪
□073	すい液に含まれ、ペプトンを分解しアミノ酸に変える消化酵素は何か	☆	トリプシン
□074	消化酵素がはたらきやすくなる温度を答えよ	☆☆☆☆	37°C~40°C (体温に近い温度)
□075	試験管にだ液とデンプンを入れ37°C前後にしたものに、ヨウ素液を入れたときの反応を答えよ	☆☆☆☆☆	特に反応はしない
□076	試験管にだ液とデンプンを入れ5°C前後にしたものに、ヨウ素液を入れたときの反応を答えよ	☆☆☆	青紫色に変色する (ヨウ素デンプン反応が起こる)
□077	試験管にだ液とデンプンを入れ60°C前後にしたものに、ヨウ素液を入れたときの反応を答えよ	☆☆☆	青紫色に変色する (ヨウ素デンプン反応が起こる)

□078	糖が含まれていることを判定する薬品は何か		フェーリング液・ベネ ディクト液
□079	試験管にだ液とデンプンを入れ、37℃前後にしたものにフェーリング液を入れ加熱したときの反応を答えよ	☆☆	オレンジ色に変色する
□080	消化酵素と温度の関係について説明した文の空欄に適語を入れよ 「消化酵素は温度を上げてても下げててもはたらきを失い、温度を【A. 】たときは体温付近に戻せば再びはたらくが、温度を【B. 】たときは、体温付近に戻してもはたらかない」	☆☆☆	A.下げ B.上げ
□081	消化酵素ペプシンがもっともはたらきやすくなる液性を答えよ	☆☆☆	酸性
□082	体内で消化された養分を吸収する臓器は何か	☆☆☆☆☆	小腸
□083	小腸の中で、養分の吸収をおこなう組織は何か	☆☆☆☆☆	柔毛（柔突起）
□084	柔毛（柔突起）という組織を持つ消化器官は何か	☆☆☆☆☆	小腸
□085	小腸の柔毛について説明した文の空欄に適語を入れよ 「小腸の柔毛は【A. 】を広げ、【B. 】の効率をよくする役割がある」	☆☆☆☆☆	A.表面積 B.吸収
□086	ブドウ糖が小腸の柔毛で吸収される際に最初に入る管は何か	☆☆☆	毛細血管
□087	アミノ酸が小腸の柔毛で吸収される際に最初に入る管は何か	☆☆☆	毛細血管
□088	脂肪酸・モノグリセリドが小腸の柔毛で吸収される際に最初に入る管は何か	☆☆	リンパ管
□089	小腸の柔毛から毛細血管に吸収される栄養素は何か	☆☆	アミノ酸・ブドウ糖
□090	小腸の柔毛からリンパ管に吸収される栄養素は何か	☆☆	脂肪酸・モノグリセリド
□091	小腸で吸収されたブドウ糖が肝臓に送られ蓄えられるときに、何という物質に変化するか	☆☆☆	グリコーゲン
□092	小腸で吸収された養分が肝臓へ送られる際に通る血管は何か	☆☆☆☆	門脈

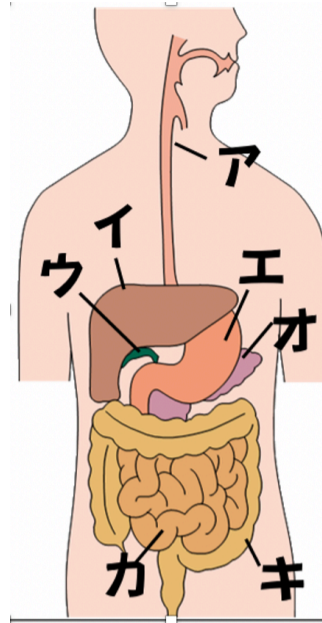
門脈について説明した文の空欄に適語を入れよ

- 093 「門脈は【A. 】と【B. 】を結ぶ血管で、【A. 】で吸収された養分を【B. 】へ運ぶ役割がある」

☆☆☆

A.小腸 B.肝臓

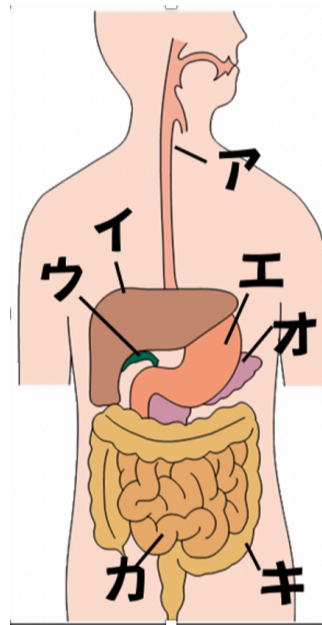
- 094 ア～キの器官は何か



☆☆☆☆☆

ア. 食道
イ. 肝臓
ウ. 胆のう
エ. 胃
オ. すい臓
カ. 小腸
キ. 大腸

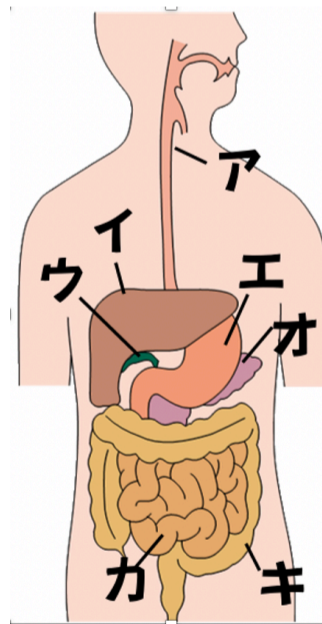
- 095 胆液を作る器官を選べ



☆☆☆

イ. 肝臓

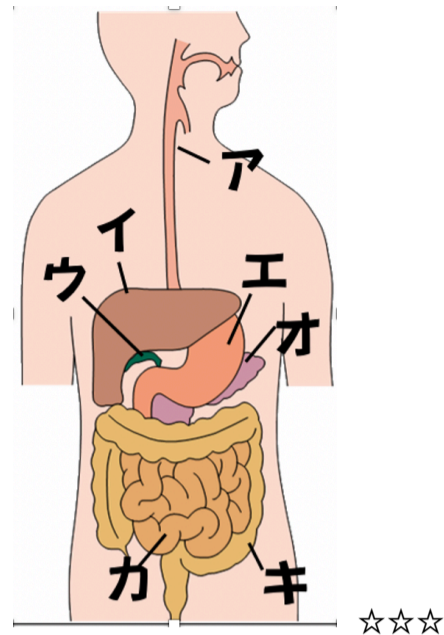
- 096 すい液が食物にはたらく器官を選べ



☆☆☆

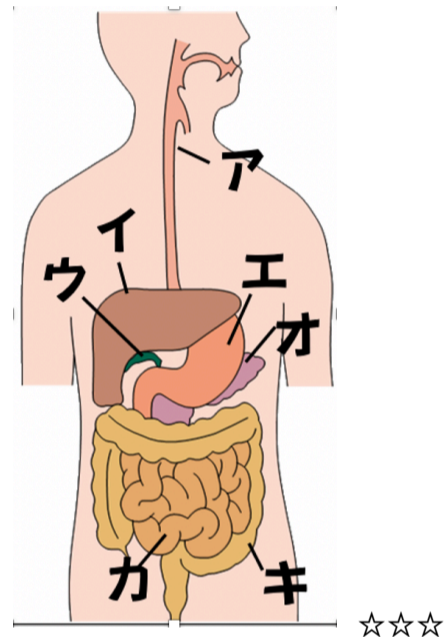
カ. 小腸

□097 養分を吸収する器官を選べ



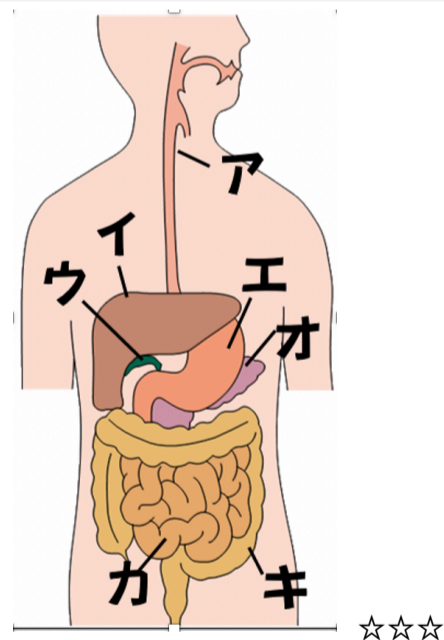
カ. 小腸

□098 水分を吸収する器官を選べ



キ. 大腸

□099 タンパク質を最初に消化する器官を選べ



エ. 胃

動物とヒトのからだ (1) 解答

001	炭水化物	酸素と結びついて、体を動かすエネルギーや熱を作り出す栄養素を炭水化物といい、デンプンと糖類が炭水化物に含まれる
002	ウ.米・麦・いも	植物が作り出したデンプンや糖類をまとめて炭水化物といい、米・麦などの穀物やいも・豆類に多く含まれる
003	タンパク質	筋肉や内臓などからだをつくる材料になる、肉や卵、大豆などに多く含まれる栄養素をタンパク質という
004	ア.肉・魚・大豆	タンパク質はからだをつくる材料となる栄養素で、肉・魚・牛乳・卵のほかダイズにも多く含まれる
005	脂肪	熱や力のもとになり、卵黄や落花生などに多く含まれる栄養素を脂肪という
006	ウ.バター・卵黄・落花生	脂肪はおもに熱や力などのエネルギーとなる栄養素で、卵黄や落花生に多く含まれる
007	.体を動かすエネルギー	酸素と結びついて、体を動かすエネルギーや熱を作り出す栄養素を炭水化物といい、デンプンと糖類が炭水化物に含まれる
008	からだをつくる材料	筋肉や内臓などからだをつくる材料になる、肉や卵、大豆などに多く含まれる栄養素をタンパク質という
009	熱や力のもとになる	脂肪はおもに熱や力などのエネルギーとなる栄養素で、卵黄や落花生に多く含まれる
010	ビタミン	からだの調子を整えたり、成長をたすけたりする栄養素をビタミンという
011	ミネラル	歯や骨、血液などの成分になる栄養素をミネラルという
012	炭水化物、タンパク質、脂肪	炭水化物・タンパク質・脂肪を三大栄養素とよび、ミネラルとビタミンを合わせると五大栄養素とよばれる
013	消化	食物に含まれる栄養を体内に取り込みやすいものに変えるはたらきを消化という
014	消化器官	消化のはたらきをおこなう組織を消化器官といい、食物の通り道となる消化管もそのなかに含まれる
015	イ.体長の約2倍	肉食動物の消化管は短めで、体長の約2倍程度の長さになる

016	エ.体長の約15倍	草食動物の消化管はせんい質の多い草を消化するため長く、体長の約12倍（ウマ）～20倍（ウシ）になる
017	肉を切り裂く門歯や、獲物を仕留める犬歯が発達している	肉食動物の歯は肉を切り裂くための門歯や、獲物を仕留めるための犬歯が発達している
018	草をすりつぶすための臼歯が発達している	草食動物の歯は草をかみちぎるための門歯と、草をすりつぶすための臼歯が発達している
019	32本（親知らずがないと28本）	ヒトの大人の歯は32本で、親知らずがないと28本になる
020	消化管	消化のはたらきをおこなう組織を消化器官といい、食物の通り道となる消化管もそのなかに含まれる
021	エ.食道→ア.胃→イ.小腸→ウ.大腸	食べ物が通る口→食道→胃→小腸→大腸→肛門の一続きの管を消化管という'
022	肝臓、すい臓、胆のう	肝臓・すい臓・胆のうは食べ物の通り道ではないが、消化液をつくりたくわえるので消化器官に含める
023	A.歯で小さくくだき B.デンプン C.食道	口は食べ物を歯で小さくくだき、だ液とまぜてデンプンを消化しながら食道へ送る
024	だ液	だ液は耳の下や舌の裏にあるだ液腺で作られ、口の中ではたらく
025	だ液腺	だ液は耳の下や舌の裏にあるだ液腺で作られ、口の中ではたらく
026	A.はなく B.胃	食道には食べ物を消化するはたらきはなく、口から胃へ送る通路となる
027	A.タンパク質 B.小腸 (十二指腸)	胃は食べ物と胃液をまぜ、どろどろにとかしながらタンパク質を消化して小腸へ送る
028	胃液	胃液には塩酸が含まれ、食べ物の殺菌をするとともに、タンパク質の消化を助ける
029	小腸	小腸では食べ物をほぼ完全に消化するとともに、養分を吸収する
030	胃	胃は食べ物と胃液をまぜ、どろどろにとかしながらタンパク質を消化して小腸へ送る
031	大腸	大腸では小腸で栄養を吸収したあとの残りかすから水分を吸収し、残りかすを便として肛門へ送る

032	肝臓	肝臓では脂肪を細かくすりつぶすためのたん液を作るほか、小腸で吸収した栄養をグリコーゲンとして貯蔵する
033	エ.体内で発生した有毒物質を分解する	肝臓は栄養分の貯蔵、有毒物質の分解、体温の発生、たん液の合成、タンパク質の生成などさまざまな働きをする
034	イ.小腸で吸収した養分を貯蔵する	肝臓は栄養分の貯蔵、有毒物質の分解、体温の発生、たん液の合成、タンパク質の生成などさまざまな働きをする
035	たん液	たん液は肝臓で作られ、たんのうに蓄えられ、小腸（十二指腸）ではたらく
036	イ.消化液のたん液を貯蔵する	たん液は肝臓で作られ、たんのうに蓄えられ、小腸（十二指腸）ではたらく
037	たんのう	たん液は肝臓で作られ、たんのうに蓄えられ、小腸（十二指腸）ではたらく
038	エ.消化液のすい液を作る	すい臓では消化液のすい液をつくり、十二指腸に送る
039	十二指腸	すい液はすい臓で作られ、十二指腸ではたらく
040	エ.消化後の残りかすから水分を吸収する	大腸では小腸で栄養を吸収したあとの残りかすから水分を吸収し、残りかすを便として肛門へ送る
041	だ液・すい液・腸液	デンプンはだ液・すい液・腸液により分解されてブドウ糖になって吸収される
042	胃液・すい液・腸液	タンパク質は胃液・すい液・腸液により分解されてアミノ酸になって吸収される
043	たん液・すい液・腸液	脂肪はたん液・すい液・腸液により分解されて脂肪酸とモノグリセリドになって吸収される
044	炭水化物（デンプン）	炭水化物（デンプン）は体内で消化されてブドウ糖になる
045	タンパク質	タンパク質は体内で消化されてアミノ酸になる
046	脂肪	脂肪は体内で消化されて脂肪酸とモノグリセリドになる
047	ブドウ糖	デンプンはだ液やすい液、腸液で分解され、麦芽糖を經由してブドウ糖という物質に変化して吸収される

048	アミノ酸	タンパク質は胃液、すい液、腸液で分解され、ペプトンを経由してアミノ酸という物質に変化して吸収される
049	脂肪酸とモノグリセリド	脂肪はたん液、すい液、腸液で分解され、脂肪酸とモノグリセリドという物質に変化して吸収される
050	口	デンプンは口の中でだ液により消化され、麦芽糖やブドウ糖に変えられる
051	胃	タンパク質は胃まで送られてから胃液により消化され、ペプトンに変えられる
052	十二指腸（小腸）	脂肪は小腸（十二指腸）まで送られてから腸液やすい液により消化される
053	酵素	体内で起こる反応に対して触媒としてはたらくタンパク質のことを酵素という
054	タンパク質	体内で起こる反応に対して触媒としてはたらくタンパク質のことを酵素という
055	A.触媒 B.変化せず	消化酵素は触媒としてはたらく、酵素自身は変化せず栄養素の分解をすすめる
056	デンプン（炭水化物）	だ液にはデンプンを分解する消化酵素（だ液アミラーゼ・プチアリン）が含まれる
057	タンパク質	胃液にはタンパク質を分解する消化酵素（ペプシン）が含まれる
058	デンプン・タンパク質・脂肪	すい液にはデンプン・タンパク質・脂肪のそれぞれを分解する複数の消化酵素が含まれる
059	デンプン・タンパク質・脂肪	腸液にはデンプン・タンパク質・脂肪のそれぞれを分解する複数の消化酵素が含まれる
060	アミラーゼ（プチアリン、アミロプシン）	アミラーゼ（プチアリン・アミロプシン）はデンプンを分解し糖にする
061	デンプン	アミラーゼ（プチアリン・アミロプシン）はデンプンを分解し糖にする
062	だ液アミラーゼ（プチアリン）	だ液にはプチアリン（だ液アミラーゼ）が含まれ、デンプンを分解し糖にする
063	デンプン	アミラーゼ（プチアリン・アミロプシン）はデンプンを分解し糖にする

064	ペプシン	ペプシンはタンパク質を分解しペプトン（ポリペプチド）にする
065	タンパク質	ペプシンはタンパク質を分解しペプトン（ポリペプチド）にする
066	ペプシン	胃液にはペプシンが含まれ、タンパク質を分解してペプトン（ポリペプチド）にする
067	だ液	だ液にはプチアリン（だ液アミラーゼ）が含まれ、デンプンを分解し糖にする
068	胃液	胃液にはペプシンが含まれ、タンパク質を分解してペプトン（ポリペプチド）にする
069	ない	たん液には消化酵素は含まれず、脂肪を細かくすりつぶし消化しやすくする
070	A.含まれず、B.脂肪	たん液には消化酵素は含まれず、脂肪を細かくすりつぶし消化しやすくする
071	リパーゼ	すい液・腸液に含まれるリパーゼは脂肪を分解し、脂肪酸とモノグリセリドにする
072	脂肪	すい液・腸液に含まれるリパーゼは脂肪を分解し、脂肪酸とモノグリセリドにする
073	トリプシン	すい液に含まれるトリプシンは、ペプトンを分解しアミノ酸にする
074	37℃～40℃（体温に近い温度）	体内ではたらく消化酵素は体温に近い温度ではたらくやすい
075	特に反応はしない	だ液によってデンプンが消化されるため、ヨウ素デンプン反応は起こらない
076	青紫色に変色する（ヨウ素デンプン反応が起こる）	だ液の中の消化酵素が低温ではたらかなくなるため、デンプンは分解されずヨウ素デンプン反応が起こり、青紫色になる
077	青紫色に変色する（ヨウ素デンプン反応が起こる）	だ液の中の消化酵素が加熱により壊れるため、デンプンは分解されずヨウ素デンプン反応が起こり、青紫色になる
078	フェーリング液・ベネディクト液	フェーリング液・ベネディクト液は加えてから加熱すると糖が存在するときオレンジ色に変わる
079	オレンジ色に変色する	だ液によってデンプンが消化され糖ができ、フェーリング液と反応してオレンジ色になる

080	A.下げ B.上げ	消化酵素の温度を下げたときは体温付近に戻せば再びはたらくが、温度を上げたときは、体温付近に戻してもはたらかない
081	酸性	ペプシンは胃液内ではたらくため、胃液と同じ酸性の溶液内でよくはたらく
082	小腸	体内で消化された養分は小腸の柔毛（柔突起）から吸収される
083	柔毛（柔突起）	体内で消化された養分は小腸の柔毛（柔突起）から吸収される
084	小腸	体内で消化された養分は小腸の柔毛（柔突起）から吸収される
085	A.表面積 B.吸収	小腸の柔毛は表面積を広げ、吸収の効率をよくする役割がある
086	毛細血管	ブドウ糖は柔毛から毛細血管を通過して血管に入り、門脈を経由して肝臓に運ばれる
087	毛細血管	アミノ酸は柔毛から毛細血管を通過して血管に入り、門脈を経由して肝臓に運ばれる
088	リンパ管	脂肪酸とモノグリセリドは柔毛からリンパ管を通過して全身に運ばれる
089	アミノ酸・ブドウ糖	ブドウ糖とアミノ酸は柔毛から毛細血管を通過して血管に入り、門脈を経由して肝臓に運ばれる
090	脂肪酸・モノグリセリド	脂肪酸とモノグリセリドは柔毛からリンパ管を通過して全身に運ばれる
091	グリコーゲン	吸収されたブドウ糖は肝臓ではグリコーゲンになって貯蔵される
092	門脈	門脈は小腸と肝臓を結び、小腸で吸収されたブドウ糖を肝臓へ運ぶ
093	A.小腸 B.肝臓	門脈は小腸と肝臓を結び、小腸で吸収されたブドウ糖を肝臓へ運ぶ
094	ア. 食道 イ. 肝臓 ウ. 胆のう エ. 胃 オ. すい臓 カ. 小腸 キ. 大腸	ア～キはすべて消化器官に含まれ、ア・エ・カ・キは消化管に含まれる

095	イ. 肝臓	イは肝臓で、たん液をつくりグリコーゲンを貯蔵するほか、様々な役割がある
096	カ. 小腸	カは小腸で、消化の総仕上げをし、養分を吸収する
097	カ. 小腸	カは小腸で、消化の総仕上げをし、養分を吸収する
098	キ. 大腸	キは大腸で、養分を吸収した後の残りかすから水分を吸収する
099	エ. 胃	エは胃で、タンパク質を消化する